



神戸常盤大学

キャンパスレポート

2022.6
No.65

建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/

パンデミックのあとに

学長 濱田 道夫



コロナ禍が始まって今年で3年目に入りました。このところ少し下火になってきたとはいえ、まだまだ安心できません。5月のゴールデン・ウィークでは久しぶりの行動制限のない連休だったせいか、繁華街は人であふれ、高速道路は各地で長い渋滞にみまわれました。3年目となると、多くの人はいい意味でも悪い意味でも危機感に慣れてしまい、国や自治体からの指示を待つまでもなく、ここまでならだいたいしょうぶ、という危機対応の目安みたいなものを自然と身につけたようにも思えます。コロナ禍の始まった年のゴールデン・ウィークを思い出します。不要不急の外出自粛が徹底され、街も高速道路もガラガラでした。

ともあれ、この4月から本学は平常通りの授業を行っています。マスクはつけたままですが、キャンパス内にもだいぶ余裕が感じられるようになりました。以前は巷でポスト・コロナとか、ニュー・ノーマルとかが話題になっていましたが、このところそれも下火になってきたようです。経験を重ねるうちに変化に慣れていき、あえて話題にする必要がなくなったということでしょうか。

しかし大学では、たとえばオンライン授業やオンライン会議をとりいれるなかで、その便利さとともに互いの思いが伝

わりにくいという不本意な面も出てきたし、受講する学生の孤立化や学力の二極化もしばしば指摘されるとおりです。教育分野でもデジタル化が、いまさら押しとどめることができないほど進化した以上、教員も学生もオンラインに対する新たな価値づくりを今後とも模索していかなければなりません。

コロナ禍が落ち着きかけたころ、今度はロシアのウクライナへの軍事侵攻が始まりました。連日、テレビの画面をとおして、凄惨で過酷な現実にさらされた人びとの姿、とりわけ子供たちの姿を見るにつけ、いのちの尊厳や家族のきずなに思いを寄せずにはいられません。理不尽な膨張主義に対し、「絶対にロシアを許さない」と言い放った住民の声が忘れられません。

コロナ禍も今回の侵略戦争も、世界中を巻き込んだ出来事です。人びとはパンデミックという危機に直面しながらも、また身近な犠牲者を惜しみながらも、何とかその変化に適応し慣れていきました。さまざまな意味での集団免疫といえるかもしれません。しかし、戦争はそれとは異なります。いま長期化が危ぶまれています、不幸にも長引いたとしても慣れてはならない現実があるように思います。

新入生を迎えて



副学長 兼
教育学部 学部長
大森 雅人

教育学部こども教育学科にご入学の皆さん、おめでとうございます。本年度は89名の新入生をお迎えいたしました。皆さんを本学にお迎えできたことを、心より喜んでいきます。

全世界がコロナ禍となって、3年目を迎えました。当初は、激変していく環境に戸惑いを覚えました。今ではウィズコロナの生活が当たり前となってしまいました。そんな中、今年になって、ロシアが隣国ウクライナを侵略する戦争を起こし、国際秩序の根幹を揺るがす事態となっています。

でも感染症の流行も戦争も、いつかは終わりを迎えます。アフターコロナ、アフターウォーでは新たな価値観が生まれ、社会のあり方も変化すると思います。そんな変化していく社会を、皆さんが担っていかねばなりません。そのためにも、これから卒業までの間、しっかりと学び、多様な経験を積み、それぞれの資質・能力を育て下さい。そして4年後には89名全員が、力強く本学を巣立って行かれることを願います。



保健科学部 学部長
塩谷 英之

保健科学部にご入学の皆さん、入学おめでとうございます。

現在、世界は新型コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻など様々な問題を抱えており、これから先の将来に対して不安感が漂っている感じを受けます。

このような状況下において皆さんは大学生活をスタートされるわけですが、大学時代はこれまでの人生とは比べることができないくらい自由が広がり、そして様々な人とのコミュニケーションが広がる時期でもあります。

ぜひこれから始まる大学生活において自分自身の若々しい感性を大切に勉強、課外活動において好きな対象を見つけ、受け身の態度ではなく能動的に取り組んでください。そしてそれと同時に、周りの人たちの自分とは違った感性、感じ方も尊重することを大切にしてください。

そのような心の持ち方がきっと将来の医療の現場で活かされると思います。

皆さんの幸運を心から祈念いたします。



保健科学部
医療検査学科 学科長
坂本 秀生

新入学生の皆さん、医療検査学科へようこそ。大学での臨床検査技師教育は35年ぶりの大改正となり、皆さんは新しい臨床検査技師教育を受ける最初の学年です。幸いにもこの改正は本学がモデルと言っても良いほど、本学の教育内容は以前から充実しており、教員を信じて学習すれば問題ないので安心して下さい。

どのような職種も「仕事」は大変で、大変であればあるほど、やり遂げると大きな達成感が残ります。特に臨床検査は現代医療に必須な上に最新技術が反映されやすいので、やり甲斐を感じるでしょう。やり遂げる過程で、様々な困難にも直面します。そんなときこそ、「これは成功へのチャンスだ」と取組むと良いです。成功の対義は失敗ではなく「行動しないこと」とも言われ、困難に直面するのは行動している証で、それを工夫して乗り越えれば結果的に成功へ結びつきます。

学生時代にいろんなことに取組み、困難をも味方のできる力を養いながら成長しましょう。



保健科学部
診療放射線学科 学科長
松田 正文

保健科学部診療放射線学科に入学された三期生88名の皆さん、入学おめでとうございます。二年前に産声を上げた本学科は着実に歩を進めて、希望に満ちあふれた諸君を迎えることができました。諸君の先輩である一期生は、早くもこの秋、臨床実習に臨むこととなります。一期生・二期生諸君の成長してゆく姿を見守ってきましたが、月日の経つのが早いのに驚いています。振り返ってみますとこの二年間は学生諸君にとっても我々教職員にとっても苦難の日々でした。しかし、その苦難を単なる苦難とせず、その中で得たものを糧にして、本学科は診療放射線技師の育成という目標に向けて努力してゆきます。新型コロナウイルス感染症が未だ終息していないこともあり、苦難・試練は続くと思われませんが、本学は諸君の期待と努力とに対する支援を惜しみません。新入生諸君が、知性と感性とを兼ね備え、旺盛な探究心と柔軟な発想力を持った医療人に育ってくれるよう祈っています。



保健科学部
口腔保健学科 学科長
吉田 幸恵

保健科学部口腔保健学科、4年制大学の一期生の新入生の皆様、そしてご家族の皆様ご入学おめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。

本学科は今年度より短期大学から大学教育に移行し、歯科衛生士の国家試験受験資格のみならず保育士や食生活アドバイザー、食育指導士、歯科医療事務管理士などの資格の取得を目指せる教育課程を置きました。さらに、4年間で学士力を培って頂きながら、本学の教育理念である「温かく豊かな知性と感性を備えた質の高い専門職者の育成」を実現したいと考えています。

新入生の皆さんは学習において最初は聞きなれない用語や新しい事柄ばかりで戸惑われるかも知れませんが、教員が全力で支援しますので、安心して勉強に励み知性を高めて下さい。また、部活やサークル活動で学部・学科を越えての学生交歓やボランティア・地域貢献といった社会活動も経験して下さい。ここで出会う多様な価値観を持った人との交流が、きっと豊かな感性を育ててくれる事と思います。



保健科学部
看護学科 学科長代行
尾崎 雅子

新緑が目には鮮やかな季節となりました。若葉のように初々しい皆さんをお迎えして、大学に爽やかな風を感じています。

大学生活には慣れましたか。大学での授業や新たな人間関係、1人暮らしを始めた人は毎日精一杯かもしれませんね。縁あって、皆さんは今春より本学看護学科の一員になられました。看護学科では「いのちを支える確かな知識と技術、豊かな心をもつヒューマンケアのプロ」を目指し、カリキュラムを構築し展開しています。さらに1年次からの基盤教育分野で幅広い教養科目を学び、学科を超えた仲間と共に学ぶ機会をもちます。これらを通して専門職としてはもちろん、「ひと」として成長するための“力”を身に付けてください。社会の状況からみても、国民の生命と健康を支える看護専門職への期待は益々大きくなってきています。4年間は長いようであつという間に過ぎていきます。皆さんにとってこの4年間に有意義な日々となるよう教員一同支援していきたくと思っています。



教育学部
こども教育学科 学科長
光成 研一郎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの多くは貴重な高校生活の大半をコロナ禍という特殊な状況で過ごされたことと思います。それゆえ大学生活への期待も一層大きくなっておられることと思います。

これからの変化の激しい社会で教員、保育者になるということは、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲や態度が求められます。本学には、皆さんが主体的に学ぶことのできる様々な環境を用意しています。ボランティア・地域交流・国際交流活動にも積極的に参加してください。そこで様々な人々と交流し、様々な価値観に触れてください。それらの経験が皆さんを一回りも二回りも大きくしてくれることでしょう。「教わるから学ぶ」、「受動から能動」へと皆さんのまなぶ意識も変えてください。我々教員は、規模が小さいというメリットを最大限いかして、きめ細やかなサポート体制で皆さんの夢の実現を全力でサポートします!



看護学科通信制課程 課程長
金川 治美

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長く続くコロナ禍の中、臨床現場では大変な状況が続いていることと思います。そんな中、決意して入学された皆さんの夢をかなえるために、我々看護学科通信制課程の教職員一同でサポートしていきます。今はまだ、期待と同じくらい不安で一杯だと思います。しばらく離れていた勉強に取り組むという事自体が大きな挑戦ですし、仕事や家庭での様々な役割をこなしながら学習を継続することは容易ではありません。しかし、志をもって入学したのですから、止まることなく着実に進んでいきましょう。まずは、目の前にある課題に取り組んでください。行き詰ったら科目担当者に質問してください。地道にこれら続けることで、「わかる喜び」を体験してほしいと思います。頑張るだけでなく勉強を楽しむことも忘れないでください。皆さんがこれまで培ったこうした臨床経験を意味づけて、目的意識と問題意識を持った社会に貢献できる看護師になることを目指して頑張ってください。

1年担任紹介

医療検査学科



Aクラス担任
堀江 修
生理学
血液検査学
血液検査学実習



Bクラス担任
新谷 路子
解剖組織学
病理学
基礎検査学



A/Bクラス担任
対間 博之
核医学検査技術学
放射線安全管理学
IPW論



Aクラス
倉本 卓
X線撮影技術学I
X線撮影技術学II
画像解剖学



Bクラス
山崎 麻由美
英語コミュニケーションI
医療英語

口腔保健学科



A/Bクラス担任
八木 孝和
人体の構造と機能I
臨床歯科学V
(歯科矯正学)



Aクラス担任
宮澤 絢子
医療英語I
歯科保健指導演習III



室崎 友輔
コミュニティデザイン
災害とまちづくり



Bクラス担任
高橋 由希子
歯科予防処置論
災害時の歯科衛生士の働き



江崎 ひろみ
対人援助技術論
歯科診療補助論

看護学科



伴仲 謙欣
まなぶる▶ときわびと
現代社会学



A/Bクラス担任
阿児 馨
看護教育論
家族看護学
老年援助論



Aクラス担任
野田部 恵
療養支援実習II
療養支援実習III
まなぶる▶ときわびと



Bクラス担任
松岡 真菜
療養支援実習II
療養支援実習III
まなぶる▶ときわびと



こども教育学科
教員養成コース
山下 敦子
国語
アカデミックライティング
教職論



保育者養成コース
笹井 隆邦
生き物と自然の力
理科
人類と地球環境



保育者養成コース
柳原 利佳子
基礎研究演習I
発達心理学
教育心理学



保育者養成コース
大城 亜水
こども家庭支援論
情報基礎
地域との協働A

新任の紹介

①住所 ②所属 ③専門分野 ④趣味・特技 ⑤好きな言葉



佐守 秀友

- ①尼崎市
- ②医療検査学科
- ③バイオサイエンス・PCR試薬開発
- ④音楽ライブ鑑賞(Jロック)・プロ
グラミング・少林寺拳法式段位
- ⑤Eighty percent of success is showing up.



長谷川 大輔

- ①芦屋市
- ②診療放射線学科
- ③核医学検査技術学
- ④ゴルフ、音楽鑑賞
- ⑤PIVOT



北川 薫

- ①神戸市
- ②診療放射線学科
- ③一般撮影、CT
- ④ダンス、ゲーム
- ⑤I did not think,
I investigated



江崎 ひろみ

- ①大阪市
- ②口腔保健学科
- ③老年看護、摂食嚥下リハビリ
テーション
- ④バドミントン、手抜き料理
- ⑤口からはじまる命



森谷 徳文

- ①岡山市
- ②口腔保健学科
- ③口腔外科
- ④スポーツ観戦
- ⑤なりたいたいものになれるのは、
なろうとしたものだけ



宮澤 絢子

- ①神戸市
- ②口腔保健学科
- ③口腔保健学
- ④自転車でパン屋巡り
- ⑤que sera, sera



室崎 友輔

- ①神戸市
- ②口腔保健学科
- ③防災、まちづくり、福祉
- ④筋トレ
- ⑤日々是新



谷口 千絵

- ①神戸市
- ②看護学科
- ③公衆衛生看護学
- ④演劇鑑賞
- ⑤人事を尽くして天命を待つ



野田部 恵

- ①大阪府和泉市
- ②看護学科
- ③療養支援看護学
- ④音楽鑑賞
- ⑤為せば成る、為さねば成ら
ぬ何事も



問本 弘美

- ①芦屋市
- ②看護学科
- ③母性看護学
- ④宝塚歌劇鑑賞
- ⑤これも何かのご縁



中村 百花

- ①加古川市
- ②事務局
- ③-
- ④手芸・ピアノ
- ⑤置かれた場所で咲きなさい



藤本 菜緒

- ①東大阪市
- ②事務局
- ③-
- ④アクセサリー作り、ネイルアート
- ⑤多様性



志水 さやか

- ①神戸市
- ②幼稚園
- ③-
- ④映画鑑賞、旅行
- ⑤一期一会

Namaste! ネパール交流会

20年以上にわたる本学のネパール交換研修は新型コロナウイルスの影響を受け、2020年度から中断を余儀なくされていますが、ネパールとの交流をより発展させることを目的に、2022年2月22日にネパール交流会を開催しました。本交流会はオンラインでネパールのShi-Gan International College of Science & Technology (SICOST)とつなぎ、同時に対面で在日ネパール人の方々との交流を行うものでした。このようなハイブリッド型の交流会は国際交流センターとしては初めての試みでしたが、神戸国際コミュニティセンター(KICC)との共同開催で実現しました。本交流会には本学の学生7名、一般の方1名、在日ネパール人の方3名に加えて本学の教職員、KICCのスタッフが参加し、さらにオンラインでRai先生、SICOSTの学生多数が参加しました。

国際交流センター長
医療検査学科 教授 鈴木 高史



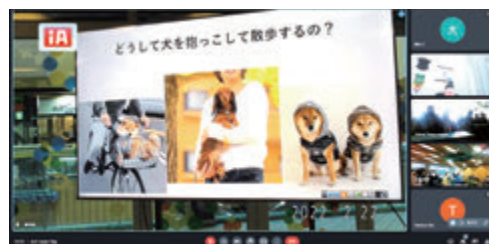
交流会のプログラムは、「楽しみながらお互いの国・文化への理解を深める」をコンセプトに、本学の学生と在日ネパール人の方が中心となって企画しました。両国の観光名所に関するクイズ、両国の文化の違いのプレゼンなどで大変盛り上がりました。最後にネパール民謡「Resham Firiri」と「ソーラン節」を参加者全員で踊り、盛会の中で本交流会は終了しました。渡航しての交流は叶わない状況ですが、コロナ禍で拡がる人の輪に感謝し、本学とネパールとの交流のさらなる発展を確信した一日でした。



ネパール集合写真



ネパールダンス



オンライン交流の様子

◆◆◆◆◆ 2022年度 学内オリエンテーション ◆◆◆◆◆



学生部長
診療放射線学科 教授 南 利明

長引く新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の中、4月8日(金)本学キャンパスにて新入生オリエンテーションが開催され、400名を超える新入生が集いました。午前中は、新しく始まるキャンパスライフが楽しく、充実するよう「学生によるトキワシンポジウム」を開催しました。学生自治会の進行で、各学科の上級生が、さまざまな情報やそのノウハウを自らの経験を交えて楽しく伝えてくれました。またキャンパス周辺の長田や板宿などの地域情報、コロナ前に行われていたネパールでの海外研修の様子や地域交流センター・ボランティアセンターの活動、学祭などの学内イベントの内容も紹介されていました。1日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、これまで以上に学生生活を思い切り楽しめる日々が訪れることを願わずにはいられませんでした。午後か

らの学科プログラムでは、教職員や上級生、また同級生とも交流を深めるため、学科ごとに工夫を凝らした催しが開催されました。医療検査学科では、グループごとにスタンプラリーやフォトコンテストで、診療放射線学科では、兵庫県放射線技師会会長、副会長をお招きし講演会が開催され、ポケモン風船を使ったチーム競技でも盛り上がっていました。看護学科ではグループワークを楽しみ、口腔保健学科では卒業生からのアドバイスに耳を傾け、これからの学生生活に期待を膨らませていたことでしょう。こども教育学科では、広々としたメインホールを使ってたくさんのレクリエーションを楽しみました。学科内の同級生との交流や先輩方との会話の中で大学生活のイメージを少しずつ描いていけたのではないのでしょうか。新入生オリエンテーションが終わると、本格的に授業が始まります。新しい学びに対する期待や環境変化に対する不安など、様々な気持ちを抱いて大学生活の幕は切って落とされました。初心を忘れることなく、また学生生活を思いっきり充実した楽しい時間にしてもらいたいと思います。



医療検査学科フォトコンテスト表彰作品



トキワシンポジウム こども教育学科の先輩による「手遊び」

学生自治会長あいさつ

本年度学生自治会長になりました教育学部こども教育学科3年笠井美宙と申します。自治会に入ろうと思ったきっかけは、先輩方からお話を伺い、その熱い思いに憧れを抱いたことと、私自身がキャンパスを主体的に楽しい居場所にしていきたいという希望があったからです。コロナの影響により学生同士の交流が困難な状況ではありますが、感染予防を徹底しながら、キャンパスライフが充実するような行事を企画し、学生同士や先生



こども教育学科3年 笠井 美宙

とのコミュニケーションの場を多く作っていきます。学部学科関係なくみんなで協力し、創意工夫しながら神戸常盤大学を活気づけていきたいと思っています。自治会委員の皆さんや先生方にお力を貸していただきながら、1年間の任期を精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。

1年を振り返って



医療検査学科 2年
小林 結里乃

この1年間、コロナ禍で様々なことが制限されていた状況でしたが、大学での生活は日々新しい学びと発見があり、とても実りのあるものになりました。講義や実習を通じて医療従事者を目指す者としての心構えを理解し、他学科の人と交流するグループワークでは様々な人と接し、新たな視点を得ることもできました。また専門的な学修が徐々に増え、勉強が大変だと感じることも多くありました。しかし、目標を同じくする仲間と教え合い、励まし合ったことで乗り越えることができました。お互いに切磋琢磨できる友人たちと出会えて、本当に良かったと思っています。この1年検査に関する基礎を学び、自分の目指す臨床検査技師としての在り方をより具体的に実感し、夢への第一歩を踏み出せたような気がします。これからももっと学びを深め、実践できるように経験を積み、自身をより成長させられるように励みたいと思います。



診療放射線学科 2年
鬼頭 つぐみ

私にとって入学してからの1年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により想像していた大学生活とは異なるものとなりました。授業も対面と遠隔があり、遠隔授業が後回しになって勉強のペースを掴むことに時間がかかりました。また、病院への見学もコロナ禍の状況のため学内での講義となり、勉強へのモチベーションを維持することが難しかったです。しかし遠隔授業があるからこそ、その後に復習や予習をはじめのきっかけとなったという利点もありました。定期試験の勉強で私は、ただ暗記するだけの部分もありました。しかし、しっかりとイメージや原理を理解しないといけないと気づきました。そのためには復習をする時に友達や先生に聞くなど、効率よく行うことが必要だと考えました。今年もまだ新型コロナウイルスの影響が続き、多くの面で不便や不安を感じるようになると思いますが、去年の反省をいかし努力していきたいです。また、ボランティア活動など様々なことにも挑戦していきたいです。



口腔保健学科 2年
宮内 舞

神戸常盤大学短期大学部に入学してからあっという間に1年が過ぎました。慣れない土地での初めての1人暮らしはとても不安でいっぱいでしたが、今では多くの友達ができ楽しい大学生活を送ることができています。私は資格を持っていれば将来役に立つという理由だけで歯科衛生士になりたいと考えていました。しかし入学後、授業を通して学んでいくうちに、口腔の健康は全身の健康に繋がっていることや歯科衛生士という職業の大切さを知り、とても魅力を感じるようになりました。1年後期から始まった学内実習では歯科衛生士の仕事を肌で感じることができました。講義の授業で聞くことと実際にやることでは難しさが違い大変でしたが、そのようなときは先生にアドバイスをもらうなどしてやり切ることができました。2年後期からは実際の現場に出て行う臨地実習が始まります。臨床で活躍している歯科衛生士を直接見ることでできる貴重な機会なので、歯科衛生士の方から多くのことを学べるように頑張りたいです。



看護学科 2年
村上 明優

2021年春、大学に入学して、夢に向けた大きな一歩を踏み出しました。夏には看護活動基礎実習があり、初めて病院の看護師さんに2日間ついてその仕事を見学させてもらいました。将来、自分も同じ様に出来るのかなと期待と不安で胸がいっぱいになったことを覚えています。後期から基本看護技術Iの演習が始まりました。特に私はリフレクションの大切さに気づきました。最初の頃はA4の紙を埋めることに必死でしたが、担当教員からのコメントやアドバイスにより、演習中に感じたことや考えたことを記述するだけでなく、同じ状況に出会ったときにどう行動するのが、知識を使って考えられるようになりました。また、この時間は自分を見つめるきっかけにもなりました。コロナ禍により病院実習、学内演習ともに制限があったため、看護技術習得に不安があります。しかし、毎日の積み重ねを大切に、成長していきたいと思っています。



こども教育学科 2年
佐埜 琴菜

私にとって初めての大学生活は、忙しくもあり大変充実した一年でした。中でもボランティア活動での経験が特に印象に残っています。小学校でのスクールボランティアでは、1年生から4年生までのクラスに入り、授業のサポートをしました。はじめはどうしてよいか分からず戸惑うこともありましたが、子どもたちとの関わりを通して声掛けが少しずつできるようになっていきました。話し方や聴き方に対する意識も変化したように感じています。子どもたちが「先生、次はいつ来るん?明日も来てや!」と言ってくれた時は、とても嬉しく励みになりました。また、地域のボランティアでは、イベントや講座のお手伝い、夏休みの学童コーナーなどを通して幅広い年齢層の方々と活動をしました。「あいさつ」はもちろん、何気ない会話が大切であることを再認識し、コミュニケーションによって人とのつながりが創られていくことを実感しました。今後の活動でも自分から積極的に言葉をかけ、行動できるように頑張りたいと思います。2年生からは専門的な授業や実習が始まります。このボランティアでの経験を活かして、成長できる学生生活にしていきたいです。



看護学科通信制課程 2年
大西 恵美

昨年、『看護師資格をとりたい』と、意を決して希望と不安を抱きながら入学しましたが、レポート設題集に目を通した瞬間、何から着手したら良いのかわからず途方にくれ、入学を後悔したことを覚えています。手探りの状態で一つのレポートに着手し、なんとか提出しましたが、結果は「不合格」。心折れそうになることもありましたが、添削指導の内容を基に、わからないことは電話やCCNを活用し質問しながら取り組みました。この学習を通して、知識が深まり、同時に看護の考え方も広がり、深まっていることを実感し、看護を学ぶこと、考えることを楽しく思えるよう変化してきました。そして次第にレポートの作成にも慣れ、着実に学習計画を進めることができました。今、看護師国家試験に取り組んでいる私があるのは、先生方や家族、職場の上司や同僚の応援に支えられてのことと感謝しています。来年の春の卒業、さらに『看護師資格をとる』という長年の目標に向けて、先生方のご指導を受けながら前に突き進んでいきます。

実習体験記

臨地実習を終えて



医療検査学科 4年
松下 里奈

私は大阪の病院にて実習をさせて頂きました。患者さんを間近に感じ実際の現場にて学ぶ事の出来る貴重な38日間、その間に学んだ事は数しませんが特に印象に残った事が2つあります。1つ目はチーム医療についてです。他職種の医療従事者により行われるチームカンファレンス、その現場を見学させて頂きました。そこでは検査結果だけでなく、結果から見える患者状態や今後の検査について積極的に話す技師の姿がありました。検査を行うだけでなく、一医療従事者として患者の為に医療に携われるそんな技師になりたいと憧れました。2つ目に病院での検査についてです。現在機械化・自動化が進む一方で、検査原理や結果診断はそのどれもが大学で学んだ内容が基礎となっている事を痛感致しました。本学での熱意あるご指導により得た知識・実技が実際の検査に繋がっていく瞬間を体験し理解を深めたと共に、より一層勉学に勤しんで参りたいと思いました。最後にこの2ヶ月間コロナ禍で大変な中最後まで病院にて実習させて頂けたこと深謝致します。

臨地実習を終えて



看護学科 4年
新井 萌夏

3年次は様々な病院で実習をします。私は、患者さんに必要な看護援助をできる限り行うことがその人のためになる、と実習に行く前は考えていました。しかし、ある実習で、その考えが、大きく揺らぐ体験をしました。その実習では、1日中患者さんと会話するだけで、なんの援助もできず終わってしまうことがあり、これで良いのだろうかと悩んでいました。すると、指導者さんが、「患者さんが、あなたを探していたよ。信頼してるんですって」と声をかけてくれて、私は驚きました。その後、患者さんから悩みや、将来の希望について、沢山お話を聞くことができました。私は患者さんと一緒にいて、話を聞いていただけでしたが、それは患者さんとの間に信頼関係が築かれるきっかけになっていたのでは?と気付きました。そして、清拭や洗髪などの看護援助だけが私たちにできる援助ではない、と学ぶことができました。この学びを活かし、患者さんとの信頼関係を大切に、患者さんに寄り添うことができる看護師になれるよう、日々努力を続けていきます。

保育実習を終えて



こども教育学科 4年
高原 彩

社会福祉施設での実習を終え、多くの学びを得ることができました。保育所実習とは違い、大人の方との関わりであることや、言語でのやりとりが難しいことなど、最初は接し方に戸惑いと緊張感がありました。そんな中、指導者の「気持ちは利用者へ伝わるよ」という一言で救われました。その言葉を胸に利用者の方と関わるように心がけてみました。楽しい気持ちを大切に、スキンシップや笑顔、短く分かりやすい言葉で、ひとりひとりに合った関わりを意識しました。そうすることで、徐々に利用者の方々も私と過ごす時間を楽しんで下さるようになり、私自身もより深く関わってみたいと感じるようになりました。また「自立課題」の作成にも挑戦しました。自立課題とは「利用者が『できる』という自信が持てる課題」です。実際取り組んでみると同じ課題でも個人差があり、取り組み方も異なりました。それぞれの利用者さんに合った工夫が必要であると学びました。実習で得た経験から、支援には「信頼関係」と「楽しい気持ち」が大切であることに気づきました。利用者の方々には言語での表現が難しい分、様々な方法で私たちに表現されています。その気持ちに気づくためには、この2つが大切であると感じます。将来福祉に携わる者として、実習で得た経験を大切に、より学びを深めていきたいと思っています。

臨地実習を終えて



口腔保健学科 3年
山内 初佳

私は2年生後期に初めて臨地実習に臨むにあたり、歯科医療人としての自覚を持ち、自分自身で物事を客観的に捉え、積極的かつ臨機応変な行動をとること、自ら向上する姿勢を身につけること、コミュニケーションを円滑にするために聞く姿勢を持つことが必要だと考えていました。実際に臨地実習が始まると、毎日が大変だと思うことの連続でしたが、社会のマナーである基本的な言葉遣いや態度、医療人としての心構えを身につけることの大切さを実感しました。実際に働いている歯科衛生士の方のように、患者さんに応じたアプローチを行い、患者さんに笑顔で「ありがとう!」と感謝されるような歯科衛生士を目指したいです。臨地実習が始まるまでは緊張と不安でいっぱいでしたが、とても貴重な経験をさせて頂きました。3年生ではさらに知識や技術を身に付け、自分自身の目指す「患者に寄り添い、不安を安心に変えることが出来る歯科衛生士」に少しでも近づけるように頑張りたいと思っています。

口腔保健学科四大制化

口腔保健学科 学科長 吉田 幸恵



2022年4月1日に、神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科は、兵庫県内初の大学として、神戸常盤大学健康科学部口腔保健学科となって、新たな船出を飾りました。

兵庫県内初の短期大学として2008年の開設以来、約700名の人材を社会に輩出してきましたが、多様化する歯科衛生士の職場環境に応じた歯科衛生教育の充実の必要性を教員たちは感じておりました。さらに、COVID-19(コロナウイルス)が猛威を振るい、対面授業の制限、実習施設の受け入れ困難や、就職活動の制限など、今までにない、学生の教育環境の難局を迎え、改めて教育・実習内容の充実、さらに、その後のキャリアを考えた教育の必要性を

感じることになりました。

口腔保健学科では、我が校の建学の精神である、「学問と実践、研究と技術を直結することによって、すぐれた職業人、生活にすぐれた能力をもつ有為の人材を養成し、社会的、地域的要請に応えんとするものであること。」に則り、人生100年時代を迎え、様々な環境変化に耐えうる人材を輩出するために、より実践的な学びの場として、附属の歯科診療所を大幅に改修し、また、ワークキャリアプランニングやインターンシップをカリキュラムに組み入れ、自らのワーク・ライフ・バランスを計画できる人物の育成に力を入れています。さらに、保育士、歯科医療事務資格、食育指導士や食生活アドバイザーの資格取得を目指せるコースを設定し、本校から旅立つ若者の未来に輝かしい世界が開かれることを期待しています。

新しく出発する口腔保健学科は、歯科医師、歯科衛生士、看護師等多様な人材で教員陣が構成されており、学生生活をしっかりとサポートしていきますので、意欲溢れた皆さんの入学を待っています。



パンフレット表紙(ちょっと、おいしい資格)



歯科診療所内での実習(ホームページより)

リニューアルされた歯科診療所

口腔保健学科の四大制(4年制教育)に伴い、歯科診療所は2022年3月から4月にかけて大規模な改修工事を行いました。コロナ下、実習先の確保は多くの養成学校における喫緊の課題であり、各校様々に工夫されていますが、本学においては他の養成校にはない歯科診療所があり、このような困難な学修環境においても、実習ができた点は、本学の大きな強みでした。

4年制教育では、さらに充実した学修環境を提供するために、歯科診療所の機能強化を行い、様々な歯科治療を受診できる施設へと変わりました。

歯科診療所の入り口をバリアフリー化し、車いすの方でもそのまま歯科治療を受けることができるユニバーサルデザインの診療台を導入しました。また、最新式の歯科用CTやレントゲン撮影

設備を整え、画像解析能力を高めました。さらに、感染対策も充実させ、世界基準において最も厳しいクラスB規格の滅菌システムを導入し、口腔外バキュームを完備し、院内感染予防の質を向上させました。

診療スタッフは現役の第一線の歯科医療現場で活躍される本学の教員陣が担当し、座学や演習で培われた内容をそのまま診療室で体現でき、知識と臨床の「切れ目のない」、「説得力のある」教育を用意して、新入生を迎えています。

入学直後には、他の大学では行われていない、歯科検診を実施し、希望者にはその後の大学生活における口腔管理もしっかりとサポートできるようになりました。健康なお口で学園生活を満喫してくれることを期待します。



歯科診療所外観
正面入り口をバリアフリー化、自動ドアでの非接触入室



ユニバーサルデザインの診療台
車いすで来られた方もそのまま治療を受けることができます。

長尾先生を偲ぶ

去る4月11日、令和4年度の授業がスタートする日に看護学科長・長尾厚子先生が急逝されました。前日の深夜に急に体調を崩し、救急搬送されたことを耳にし、祈るような思いで朝を迎えましたが、願いは届かず大動脈解離により74才の生涯を閉じられました。

先生は平成13年4月、本学が県下で初となる私立大学としての看護学科の開設と同時に着任されました。それ以前より実習病院の開拓や、カリキュラム構築に係る準備に尽力頂くなど、まさに看護学科の礎を築かれました。



また、通信制課程の設置に携わり、平成17年に全国で唯一の私立大学としての同課程を開設、同時に課程長、通信教育委員長に就任されました。当時は全国的に看護学科新設ラッシュの最中、“なぜ今、准看護教育?”と疑問を抱く人々が多い中、准看護師から看護師へのキャリアアップの重要性を唱えられ、リカレント教育の実践に尽力頂きました。先生と共に文部科学省や神奈川県、愛知県の看護協会長に会い、その想いを熱く語られていた姿を思い出します。通信制課程はその役割をほぼ終えたと判断し、昨年度を以て募集を停止しましたが、願わくば同課程が全ての卒業生を送り出すまで見届けられなかったことは、心残りではなかったかと思料いたします。

平成27年には看護学科長に就任、学科運営や募集広報、地域貢献活動など、その活躍ぶりは筆舌に尽くしがたいものでありました。

とりわけ、一人ひとりの学生に寄り添い、指導を行う姿は学科長になってからも変わらず、永きに亘る教員生活で実践し続けてこられた先生でした。日々お話する中でも、看護の理論は敢えて口に出さなかったように思えます。しかし乍ら、長尾先生を見ていて多くの方々が常盤の看護を体現しているように思えたのではないのでしょうか。

学生、教職員を問わず、多くの人々が先生に相談を持ちかけ、悩みを打ち明け、それを1人ずつ、1つずつ丁寧に聞き、対応して下さった。時には、食事に誘い満腹になった様子を見届け、本人も満足げに別れる。幾人もの方々が経験されたでしょうし、私もその1人です。4月30日、先生の訃報を聞きつけた短大時代の看護学科1期生が大学に集まり、先生を偲び、想いを寄せ書きにしたため、ご遺族に届けられました。

おだやかで、情け深く、万人を愛した先生、ご位牌には、“博愛厚情信女”の新しい名が刻まれていました。

長尾厚子先生、ありがとうございました。

学校法人玉田学園 法人本部長 中村 忠司



研究ノート

游於藝(芸に遊ぶ)

診療放射線学科
学科長補佐 教授 對間 博之



茨城県水戸市にある弘道館は、水戸藩主徳川齊昭が開設した日本最大級の規模の藩校で、今でいうところの総合大学ということになります。その弘道館の扁額に掲げられている『游於藝』という言葉は「論語」の「子曰 志於道 據於徳 依於仁 游於藝」の一節であり、江戸時代末期の教育や研究の指針の一つとされています。

ここでいう「藝」とは、学問や武芸など広い意味を指し、今でいう教養や技術とも言えます。「遊ぶ」とは、自由に考え行動し、悠々と楽しみながら学ぶことを表しています。

私は、放射線技術学の中でも放射性医薬品を用いた検査や治療を行う「核医学」という領域を専門にしていますが、その専門性だけにとらわれることなく、工学など他分野のプロフェッショナル達との会話の中から生まれたアイデアをもとに、楽しみながら新たな研究を遊んでいきたいと考えています。ちなみに次の研究は、「パン屋さんの会計システム」からヒントを得たものです。

多文化共生は長田区に立地する 大学としての使命でありディスティニー

社会連携課 内橋 一恵



日本は2015年にOECD加盟国のうち外国人移住者統計で韓国を抜いて初めて4位になりました。すでに日本社会は外国人労働者なしには成立しない構造になっています。新たに作られた在留資格「特定技能」により、日本への事実上の永住や家族の帯同が可能になりましたが、定住外国人支援などは非常に手薄のままです。

長田区は、オールドカマーもニューカマーも多く居住する地域で、様々な世代、背景の外国にルーツをもつ住民が直面する課題や困りごとを身近に知り、協働することができる場所です。地域貢献を大切にしてきた本学は、この地域に特有でかつ日本社会全体に普遍的な多文化共生に関する取り組みを先進的に行うことができる、地の利を持っていると言えます。

この信念にもとづき、これまで教育分野でのフィールドワークや、国際保健室、防災教育などの分野での企画を多数おこなってきました。

2022年4月からは、本学の子育て総合支援施設KITの小学生の放課後学習支援の場「てらこや」で、KICCとの連携により日本語の支援も始まりました。



リレーエッセイ

「旅それは贅沢で豊かなとき」

看護学科 教授 十九百 君子



2019年9月
 ちょっと行ってきますと伝え、私は旅人になった。
 滞在先はカナダ ブリティッシュコロンビア州のビクトリア。
 渡航して3日目、海外生活の洗礼を受ける。
 その時、私はバス停に向かっていた。
 あのバスだ。後を追うようにバスに飛び乗った。
 いつもみる森林の中の家並みが?あれ?間違った?
 少し不安を感じつつも、やがて乗車したバス停に戻るだろう
 と思いバスに揺られひと時を過ごす。
 潮の香りはいつしか森の香りに変わり、山を登るように進む

バス。急に私の頭にカナダの地図が浮び上り、あご髭を伸ばし
 サングラスをかけた大柄な運転手に思わず声をかけた。運転手
 は「バスはこのまま車庫に入るよ」と一言。私は唖然!とする。
 カナダで迷子!?そんな私を背に、運転手はゆっくり私に話し
 かける。片言の英語で話す私と運転手とのやりとりを乗客達は
 黙って聞いて待っていた。
 やつとの思いで滞在先近くのバス停に着くと暗闇のなか、家
 の灯りがいつものように出迎えてくれた。
 意味もなく急ぎ、自分のいいように思い込んでしまう不思議
 な自分。旅は自分自身をみつめる贅沢で豊かなとき。



ときわ幼稚園通信



4月11日に始業式、12日には第53回入園式を行い新年度がスタートしました。今年度は3歳児7名、5歳児1名の計8名の子どもたちが入園しました。新入園の子どもたちは園生活に初めは緊張しているようでしたが、少しずつ幼稚園にも慣れ、教師や友達と過ごすことを楽しめるようになってきました。進級した年中・年長児は、新しい友達ができることをとても楽しみにしていたので、「おはよう」と笑顔で声をかけたり、困っている時には優しく教えてあげたりしています。戸外遊びで年少児がダンゴムシを見ていると年長児が「こうして触るんだよ」としてみせて年少児の興味が広がったり、触ったりして一緒に遊ぶようにもなりました。友達とかかわる中で遊びや活動の幅を広げ、充実した園生活を送ることができるよう職員一同支えていきたいと思ひます。

ときわ幼稚園 教諭
明瀬 里菜



「ダンゴムシがいたよ」

● KOBE TOKIWA オープンキャンパス のお知らせ ●

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、やむを得ずオープンキャンパスを中止する可能性があります。開催日直前に再度ホームページにて実施の可否のご確認を宜しくお願い致します。

〈日時〉：7/10(日)、7/24(日)、8/27(土)、9/11(日)

開催時間や申込方法等は、大学HPにてご確認願ひます。

〈内容〉：学部・学科紹介、キャンパスツアー、個別相談会等

〈場所〉：本学キャンパス(無料送迎バス運行)

★見学・入試に関する事などのご質問は入試広報課(078-611-1833)に
お問い合わせ下さい。

OPEN
CAMPUS



財務情報につきましては、本学園のホームページをご覧ください。

発行・編集 神戸常盤大学 広報委員会 〒653-0838 神戸市長田区大谷町2-6-2 ☎(078)611-1821(代)